【インフォメーション】

1.創業・ベンチャー国民フォーラム Japan Venture Awards 2009

起業教育部門　フォーラム会長表彰受賞
大阪市立鶴見商業高等学校



平成21年1月20日、東京・有楽町の東京国際フォーラム展示ホールにて、全国各地から推薦された優秀なロールモデルとなる起業家・起業支援家を表彰する「Japan Venture Awards 2009」が開催されました。

「Japan Venture Awards 2009」は起業家部門、起業支援家部門、起業教育部門、地域起業家部門からなり、19の個人と団体が受賞しましたが、起業教育部門において本学が推薦した大阪市立鶴見商業高等学校の取組が創業・ベンチャー国民フォーラム会長表彰を受賞されました。



大阪市立鶴見商業高等学校は本学と高大連携の取組を行っており、その取組内容を基に、本学から「Japan Venture Awards 2009」に推薦いたしました。

以下に大阪市立鶴見商業高等学校の取組の概要と応募概要をご紹介します。

■大阪市立鶴見商業高等学校

□事業概要

本校は平成19年4月、大阪市で初めて民間企業出身の校長を迎え、今まで行ってきたキャリア教育をさらに進める形で、企業との連携を強化し、生徒たちとビジネスを生み出す取組（＝起業教育）を始めると同時に、大学との連携も強化して、プレゼンテーション能力の向上にも努めてきました。そして、「コンビニ弁当の開発」と「スポーツグッズの開発」は商品化され、「高校生向け新聞の研究」では英語でプレゼンテーションを行いアジア2位の成績を収めるという成果が出ました。この一連の取組は、教育関係の情報誌や高校生を対象にした新聞だけでなく、一般のテレビ・新聞でも取り上げられ、高い評価を得ました。

□事業の特徴

(1) 起業教育プログラムを開始した背景や理由

高校生にとって、教室での勉強が社会で本当に役に立つのかという疑問や不安は常にあると思います。本校では、高校での学びが、実社会で役に立つことを実感してもらうために、企業との連携を進めています。また、本校は商業高校で、卒業後の進路として就職が6割、進学が4割となっており、就職・進学の面接試験対策として「人前に出て自分の考えを相手に伝える」能力を身につけさせることや、社会で働くことや大学で学ぶことの魅力を早く理解させておく必要を感じたことも背景にあります。実施にあたっては、卒業生が働く地元企業との関係や、校長の民間企業時代のネットワークが生きています。

(2) 具体的な活動内容

1.スポーツグッズの開発［大阪エヴェッサ］

対象―課題研究・BCR（ビジネスクリエーションリサーチ）選択者（3年生）

特徴―集客アップに向けた企画の提案や、エヴェッサ・グッズ開発の提案

2.高校生向け新聞の研究［産経新聞社］

対象―課題研究・進学講座選択者（3年生）

特徴―アジアの高校生ネットワークを構築して英字新聞を発行する企画の提案

3.ショッピングセンターとの交流［イオンモール鶴見リーファ］

対象―課題研究・BCR選択者（3年生）

特徴―店舗を取材したフリーペーパーの作成とイベント企画の提案

4.コンビニ弁当の開発［ミニストップ］

対象―1～3年生の希望者（大阪市ビジネス教育推進委員会）

特徴―新しいコンビニ弁当の開発と提案

(3) 起業教育活動の成果

起業との連携では熱い起業担当者の存在が不可欠であり、高校生は知識や技術だけでなく、働く上で必要な熱い気持ちを学び、精神面でも成長できました。どの連携においても、企業の社会貢献という枠を超えた、担当者の仕事にかける情熱を感じました。また、大学の先生方からはプレゼンテーションをするために必要な技術を学び、就職・進学にかかわらず、自分の進路決定のための参考になったと思います。その成果として、「高校生向けの新聞」の企画を発表した、全国高等学校生徒商業研究発表大会（日本語）とアジア・ビジネスプラン・コンテスト（英語）で、それぞれ優秀賞をいただくことができました。そ

して、大阪エヴェッサとの連携では、新しいシーズンに向けてのグッズを製作会社に提案し、実際に発売されることになりました。

(4) 地域や社会からの評価と今後の展望

大阪エヴェッサとの連携では、平成18年に集客力アップの提案をした時に地元新聞（大阪日日新聞）に評価していただきました。それ以降も、「コンビニ弁当」発売にあたっては、全国紙（毎日新聞）や地元テレビ局（毎日放送）からの取材を受けたり、教育関連の情報誌（JOINT SUCCESS）や高校生向け進路情報誌（HIGH SCHOOL TIMES）に取り上げていただいたりしています。今後は、本校のこのような取組を見て、中学生が商業高校に今まで以上の関心を持って入学して欲しいと考えています。もちろん、本校が大阪を代表する起業教育推進校として、取組をさらに進めていきたいと考えています。

■「Japan Venture Awards 2009」への応募内容

□プログラム名　地元スポーツ企業と大学との連携による起業家教育

□教育対象者　本校生徒（課題研究選択者）

(1) 内容

平成17年10月、日本初となるプロバスケットボール・リーグ「bjリーグ」が開幕することになりましたが、6チーム（リーグ・スタート時。現在は12チーム）の中に大阪を本拠地にした「大阪エヴェッサ」というチームがあることを知り、交流を始めました。最初の年は、学校全体に呼びかけ、希望した生徒で試合会場にあるショップでインターンシップを行い、参加した生徒のほとんどが自分の進路として販売職を選びました。平成18年は、グッズを製作する会社でのインターンシップを経て、ホームゲームでの集客アップのためのイベントなどを企画・提案しました。その発表に向けて、大阪商業大学の先生方に何度も勉強会を開いていただき、生徒はプレゼンテーションの技術を身につけました。平成19年は、試合会場全体でのインターンシップを行い、選手・観客への対応も体験しました。3年にわたる取組を経て、平成20年は、エヴェッサ・グッズの企画・開発に取り組みました。今までにない新商品を考え、実際に企画・販売を担当されているヤング商事株式会社に提案したところ評価していただき、その数点が実際に商品として発売されることになり、シーズン開幕に向けて発売されることになっています。

(2) 成果

生徒たちが会社で働くこと、大学で学ぶことの意味・意義を理解したこと

が最大の成果だと感じます。大阪エヴェッサの担当者やグッズ製作会社の責任者の話を聞く生徒たちの眼差しは、授業中のそれとは異なり、真剣そのものでした。また、実際のプレゼンテーションの時に地元紙の取材が入り、自分たちの取組を多くの人に知ってもらえる喜びも感じたと思います。協力していただいた大阪商業大学のホームページにも掲載していただきました。さらに、大阪商業大学が主催する「高校生起業ミーティング」にも参加し、ワークショップでも積極的活動しました。リーダーの生徒は、その後販売職に就き、個人で全国2位の売り上げを記録し表彰されるなど、社会に出ても活躍を続けています。

そして、今回のエヴェッサ・グッズの発売に向けても、コンビニ弁当の時のように、メディアに取り上げていただき、起業教育の成果を広く知っていただきたいと考えています。